



町社会福祉協議会
木下美千代さん

福祉

「目配り気配りの

福祉ネットワーク」

子どもも、若っかもんも、減るばかり。増ゆっとは、年寄りと不安ばっかりー」

これは七滝地区社協会長の言葉です。昼間、若い人は仕事に出て高齢者ばかりという地区もあります。そんなとき、倒れても誰か気づいてくれるだろうか。認知症になったらどうしようか。災害が起きたらどうなるのだろうか。そんな不安を少しでも安心につなげるため、思いを巡らせたものが小地域福祉ネットワークです。

町社協には、地域の支え合いと、その仕組み作りをお手伝いする小地域ふれあいネットワーク推進事業があり

ます。この事業の柱が見守りネットワークと地域サロンです。活動のポイントは①見守りタイ♡②地区での連絡会③地域サロン④緊急安心カードの4つ。皆さんが普段意識せずにされている目配り気配りの活動です。隣近所との声の掛けあい、ふれあいが見守りネットワークやサロンと

思ってください。

見守り活動は、「電気はついているかな」「カーテンは空いてるかな」などを気に掛けることから始まります。声を掛ける、定期的な訪問する人、そつと見守るだけということもあります。この何気ない目配り気配りのなかで、

いつもと違う、ちょっとした、小さなことに気付くことがあります。その小さな気づきが、おおごとを未然に防いだり、早めの手立てを考えるきっかけとなります。

重要なことは、何かに気づいたとき、誰かが、どこかへ連絡することが大事です。このとき、緊急安心カード、見守り活動や連絡会を通して意識していますから、連絡もスムーズにいきます。緊急安心カードは、家の中に置

いてもらい、「救急車を呼ばなん」「家族に連絡せなん」など、緊急時には、本人以外でもカードを見れば必要となるに連絡できます。

地

域サロンも小地域福祉ネットワークの一環です。サロン活動は、高齢者の支え合い、ふれあい、集いの場として地域の人たちの手で主体的に活動をされています。私たちも、サロンでの健康づくりに貢献していきたいと思っています。



教育現場で認知症への理解図る

七滝中央小学校(村上孝利校長、72人)で2月20日、認知症の学習会が開かれました。これは町地域包括支援センターが主催。認知症への正しい理解などを目的に、町内すべての小中学校で開いているものです。講師は、老人総合福祉施設グリーンヒルみふねの吉本洋施設長が務め、認知症という病気、絵本を使った朗読、接し方などについて話しました。受講後には、認知症サポーターの証となるオレンジリングが児童たちに手渡されていました。

Interview



七滝中央小6年
吉本奈那子 さん(田代)

認知症は、その人にとってはとても大変なことです。家族に世話もかけるけど、家族だから大切な人だと思いました。私ももの忘れしたことがあるから、そのことを思い出して、認知症の人の気持ちになれたらと思います。学習を振り返って、やさしく声を掛けたり、一緒に行動をとったり、たくさん話しかけられたらいいなって思います。



七滝中央小6年
木村 隼斗 さん(七滝)

認知症は、もの忘れや、人と話せなくなったりする少し寂しい病気だと感じました。道に迷ったりしたことを思い出すと、認知症のことがよく分かると思います。これからは、地域の人にも自分からあいさつをして、進んで会話することを心がけます。勉強したことを家族や、周りの人に伝えて、認知症の人たちを助けてあげたいです。



鷹野 和美さん

●Profile
たかの・かずみ
国立信州大学大学院卒。NPO 法人 Osaka21 理事長、国際生涯学習研究財団理事などを務める。老人デイケアの創設者としても知られる。「袋小路の向こうは青空」「地域医療福祉システムの構築」など著書多数

「認知症は風邪と同じ

おせっかいをやける町に」

認知症の人を抱えてしまった家族は、袋小路にはまったように出口が見えません。日々悩んで、困って、介護を放り出してしまいうことにもなっています。

何より重要です。

認

知症は病気で、単なるもの忘れではありません。やったことの一部分を忘れたら、それは老化です。意欲、自発性、やる気、注意力がなくなつたと感じたら、「もしかし

私

は調査をしました。認知症の人に誰が一番に気づいたのかを。それは幼なじみです。近所の人も最初に気づきますが、家族に言うことができません。それで手遅れになっていくんです。

御船町が使っている緊急安心カードは、ものすごくいいですね。気がついた人がカードを持って「〇〇さんを見てくれませんか」とできるよ

うになりました。ずっと一緒に育ってきた地区の人がわからなくなっていくのを黙って見ているだけでなく、町や町社協に伝えられる仕組みをつくっていただきたいです。

日本では、北海道本別町です。ここでは、認知症になった人は登録します。町民は登録された人を笑いにするわけでもなく、大事にしてくれます。風邪を引くことと認知症は同じです。ただの病気ですからね。だから、みんなですべていこうって。

認知症の家族がいたら、「私が3時間かわるから、昼寝したら」と言ってくれる人がいてくれたら、どれほどいいでしょう。そういうことが当たり前にできるようなになるには、おせっかいをやいてください。おせっかいをやくことがおかしいことじゃない、そんな町になつてくれるといいですね。

町では、平成23年度に認知症対策推進事業として、認知症サポーターの養成、家族の集い(写真左)、認知症に強い脳を作るパソコン教室などを行っています。平成24年4月からは、認知症施策総合推進事業で、もの忘れや地域巡回の相談にも力を入れて、安心して暮らせるまちづくりをサポートしていきます。認知症のことでお悩みの人は、まずは電話でご相談ください。

町社協では、地域の支え合いをお手伝いする事業として、見守りネットワークや地域サロンを展開しています。見守りネットワークは、各地域の高齢者を見守りタイが声掛けや訪問を行う活動です。地域サロンは、囀託区単位で体操や茶話会で交流を図ります。緊急安心カードの設置(写真右)も呼びかけて、地域にあった支え合いの方法を一緒に考えます。詳しい内容は、電話でご連絡ください。

▼問い合わせ

町社会福祉協議会 ☎282-0785

▼問い合わせ

町地域包括支援センター(役場福祉課内) ☎282-2911



包括

社協